

ミニ討論を取り入れたペアワークの授業

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-03-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: IWAMURA, Mariko メールアドレス: 所属:
URL	https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/4315

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



ミニ討論を取り入れたペアワークの授業

樟蔭中学校・高等学校英語科教諭 岩村万里子

1. はじめに

本稿では、中学3年生の身体表現コースと総合進学コースの到達度別クラスで行った英会話授業の一例を紹介する。昨年度より、到達度別クラスを実施し、各クラス20名から28名程度の3分割で構成している。定期テストごとに、組み替えているので、クラス間の行き来があり、生徒たちのモチベーションを保つことができている。今回は、上位層のクラスでの外国人講師との授業の取り組みについて報告する。

2. 実践報告

日時：2017年11月8日（水）第4講時

対象：中学3年 到達度別クラス

身体表現コース（30名）と総合進学コース（38名）を3分割にした到達度別クラスの上位の生徒26名である。身体表現コース17名、総合進学コース9名で構成されている。

場所：樟蔭中学校 3年桜組（女子のみ）

テーマ：＜It is ～ for … to 動詞の原形.＞を使って、ペアで肯定か否定の立場に分かれて、ミニ討論をする。

目標：①＜It is ～ for … to 動詞の原形.＞の理解

②相手の意見を聞き、それに対する自分の意見をペアで発表する

③発表者の意見を聞き、それに対する自分の意見を考え、発表する

配当時間：2時間（2週間）

授業計画：

①第1時 ＜It is ～ for … to 動詞の原形.＞の復習。

ミニ討論の内容説明と、ペア・テーマを決める。

発表内容の会話をペアで作成する。

外国人講師により，文法チェックを受ける。

正しい発音を意識して音読練習し，内容を覚える。

②第2時 発表，評価，反省。

発表する時の表情，アイコンタクト，声量，スピードを意識して発表する。

発表中はメモを取り，自分の意見を考えておく。

全体の発表のあと，聞き取った発表者の意見と，それに対する自分の意見を発表する。

教材： オリジナル

Choose one of the six topics and debate your opinion using the conversation at the bottom. (+) are the good points. (-) are the bad points.

1. Play video games

(+) have fun with their friends / enjoy their free time.

(-) play too much and not study / get fat

2. Study English

(+) enjoy travelling overseas more / communicate with foreigners

(-) forget Japanese / feel tired and confused

3. Read comic books

(+) do something fun when riding the train / relax in their free time

(-) read too much and not study / believe the comic world is true

4. Have a smartphone

(+) contact their friends and family anytime / use interesting applications

(-) have to pay an expensive phone bill / use their phone too much and forget how to have a real conversation

5. Have a part-time job

(+) earn some money / meet new people and get good experience

(-) feel too tired to study / have an accident at work

6. Wear a uniform

(+) look very smart / feel part of the school

(-) feel bored wearing the same clothes every day

サンプルのスキット：

A: Do you think it' s good for students to ①……………?

B: Yes, I think it's a good idea.

A: Really? Why do you think so?

B: If they ①………… they can ② (+)…………

A: I don't think it's a good idea.

B: How come?

A: If they ①………… they will / might ② (-)………….

B: Yes, I suppose there are good points and bad points.

3. 授業の実感と所感

<第1時>

< It is ~ for … to 動詞の原形 . >については、教科書を使用して、十分に理解している状態であった。6つのトピックに対する良い点と悪い点を書き上げたものの中で、新出単語や熟語は、各自でメモを取って理解していた。

教師の指示によりペアを決め、ペアで話し合ってトピックを決めさせた。プリントに提示した例以外の表現を書きたがっているペアが多く見られた。それが、評価につながるかどうかは関係なく、自分の意見を英語で伝えたいという気持ちである生徒がいることで、ペアワークが活発になっている。(図1)

時間内に文法チェックができなかったペアは、代表者が後日提出するようにしている。添削した英文を返却時に音読させ、正しい発音も確認させる。

Write ペアで発表する内容を下にまとめて、先生にチェックしてもらおう。チェックのあとは暗唱しよう！

A : Do you think it's good for students to have a smartphone?

B : Yes, I think it's a good idea.

A : Really? Why do you think so?

B : If they have a smartphone they can use interesting applications. For example, many kind games. It's very fun. And they can study using them.

A : That's a very interesting idea, but I don't think it's a good idea.

B : How come?

A : If they have a smartphone their eyes might go bad. And it will be broken easily when they drop it.

B : Yes, I suppose there are good points and bad points.

(図 1)

<第2時>

授業開始後約10分を使って、各ペアで音読練習をさせた。毎回発表当日の時間を使って、生徒が自信をもって発表できるように音読指導をしている。1年生の時から、週に1回の外国人講師との授業の中で、発表に取り組んできているので、生徒たちの中には抵抗感がないように感じる。

今回は、欠席の続いている生徒が1名いたため、会話文を3人で作っているグループがあった。プリントには2人の会話文を例示していたので、どう会話をつなげればいいのか試行錯誤していた。単に同意表現を一言で伝えるのではなく、3人共が<It is ~ for ... to 動詞の原形.>の形を使って自分の意見を伝える表現を入れられるように指示した。(図2)

New words and Phrases:

confused: 混乱した

earn: かせぐ

bored: つまらない

might ~: ~ するかもしれない

Idea Box:

I think so, too. / I don't think so.

I agree with you. / I don't agree with you.

I think you are right.

That's a very interesting idea, but

You are wrong on that point.

For example,

Write ペアで発表する内容を下にまとめて、先生にチェックしてもらおう。チェックのあとは暗唱しよう!

A: Do you think it's good for students to have a smartphone?

B: Yes, I think it's a good idea.

C: Really? Why do you think so?

B: If they have a smartphone, it is easy and convenient.

A: I don't think it's a good idea.

C: How come?

A: If they have a smartphone, they can't live without it.

And they might be involved in some troubles.

B: I think you are right. How about you?

C: But I suppose there are good points and bad points.

意見

I think it's good for students to have a smartphone.

(図2)

また、今回はいつもの発表ではしていないディクテーションの活動を取り入れた。発表を聞いている生徒たちが、発表者の意見を聞いて書きとり、それに対する自分の意見を書かせるようにした。(図3)

Please listen to the speeches, make some memos and say your opinion about someone's speech.

Eg. ~ちゃん says it's good for students to,
but I don't think so, because.....

Memo... () says... it's good for students to...
...play... video games... but I don't think so,
...because... I play too much and not study..
... () says... it's bad for students to...
...have a smartphone... I agree with her...
...I think she is right...
... () says... it's good for students to...
...wear a uniform because feel part of the...
...school... That's a very interesting idea...
...but I don't think it's good for students...
...to wear a uniform... Because I feel bored...
...wearing the same clothes every day... I agree...
...with ()

(図3)

ディクテーションについては、課題の残る内容だった。発表の前にプリントを配布し、内容を外国人講師から英語で説明をした。だが、何をするのかかわかっていない生徒がいるまま、発表を始めてしまった。なかには、発表者の発表自体を評価するような内容を英語で書き出す生徒もいた。例えば、「笑顔で発表していた。」とか、「声が大きくて聞きやすかった。」というような内容で、こちらの意図するものではなかった。

最初のペアの発表が始まってから、指示されたことが理解できていない生徒がいることに気が付き、何組かの発表が終わってから全体に再度日本語で指示し直した。始めから全体に明確に説明し、生徒たちの理解を確認することで、混乱を防ぐことができたのではないかと反省した。

4. 終わりに

授業準備の段階から、外国人講師にアドバイスを求めながら、6つのトピックを考え、それぞれの良いところや悪いところの例を挙げた。生徒に身近なトピックにすることで、生徒たちが自分自身の意見を盛り込みやすくなり、いつも以上にペアワークを活発化したと思う。

だが、他の生徒の発表をディクテーションし、自分の意見をその場で考えて付け加えて発表するところは課題が残った。プリントにある内容なら、ディクテーションしやすかったようだが、オリジナルな意見を入れている発表については、スペルミスが非常に多く、時間内には一つひとつを丁寧に指導できなかった。それぞれのペアの発表の後に時間を取り、生徒たちから聞き取りにくい単語のスペルを質問させ、スペルを板書するなどの工夫が必要だと感じた。今後は、もっと時間に余裕を持った授業計画を立てることを心掛けたい。

コミュニケーション能力を培う上で、相手の意見を聞き取り、それに対する自分の意見を伝えようという姿勢を作ることが重要だと思う。外国人講師との授業においては、提示された通りの会話を暗唱するだけでなく、そこからさらに一歩踏み出して、自分が本当に言いたいことを伝えるための努力ができる授業づくりを目指したい。今後、今回のミニ討論から発展させて、実際のディベートやディスカッションのような活動につなげていきたい。

